

名称 シコン

他名等 ムラサキ

部位等 根

備考

学名 (科名) *Lithospermum erythrorhizon* Sieb. et Zucc, *Lithospermum officinale* L var. *erythrorhizon* (S. et Z.)

Hand.-Mazz. (Boraginaceae) ムラサキ科

其原植物和名等 ムラサキ 生薬名 硬紫根

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

毒性データ (LD50 等) RTECS oral mouse LD50 >10g/kg, i.p. mouse 40mg/kg

L.callosum alkaloidal extract rat oral LD50 90mg/kg, oral mouse 20mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

shikonin類 (プレニルナフトキノン)

(+)-shikonin: LD50 oral mouse >1g/kg; i.p. mouse 20mg/kg; i.v. rabbit 16mg/kg

shikonin β,β -dimethylacrylate i.p. mouse 48mg/kg

Shikonin propionate: i.v. rabbit LD50 9.75mg/kg

同属の *L. officinale* and *L. purpureo-caeruleum* に青酸配糖体 lithospermoside (RTECS なし) の含有が報告されている。 *Phytochemistry* (1977), 16(6), 707-9

主要な生理活性

細胞毒活性 (抗腫瘍)

紫雲膏 (痔疾、やけど)

重要文献

その他注意すべき点

口紅に含有、口紅は口に入るが積極的食物ではない。

軟紫根 *Macrotomia euchroma* (alkannin)

Botanical Safety Handbook: *Alkanna tinctoria* は Class 2c

評価: B

局方収載の重要な生薬である。

名称 シツリシ

他名等 cartrop (イガのある実を結実する植物)

部位等 果実

備考

学名 (科名) *Tribulus terrestris* L. (Zygophyllaceae) ハマビシ科

其原植物和名等 ハマビシ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方第二追補収載予定 局外生規

毒性データ (LD50 等) RTECS (部位不明、extract) 56.4mg/kg i.p. rat;

Reproductive effect (leaf caltrop), goat and sheep, oral TDL0 111g/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

alkaloid での CA のヒットは 2 件そのうち化合物レベルは 1 件 Alkaloids and other constituents from *Tribulus terrestris*: terrestrisamide, 25R-spirost-4-en-3,12-dione, and tribulusterine, together with other known compds., *N*-p-coumaroyltyramine, terrestriamide, hecogenin, aurantiamide acetate, xanthosine, ferulic acid, vanillin, p-hydroxybenzoic acid, and β -sitosterol: *Phytochemistry* (1999), 50(8), 1411-1415

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

Steroidal saponin *Journal of Natural Products* (2000), 63(12), 1699-1701 ; *Phytochemistry* (1997), 45(4), 811-817, *Phytochemistry* (1996), 42(5), 1417-1422 広大山崎先生 他多数

フラボノイド

主要な生理活性

浄血、強壯、かぜ・頭痛

a mild diuretic effect was observed with the alkaloid fraction. *Indian Journal of Medical Sciences* (1963), 17(4), 291-3

重要文献

β -カルボリンアルカロイド *Phytochemistry* (1999), 50(8), 1411-1415

その他注意すべき点

薬草トリビュラス *Tribulus* が欧米では、男性の生理学と機能に影響を与える臨床試験が行われている。*Tribulus* の配合されたトリビュレックスには朝鮮人参などの、男性にとっての強壯剤などを含んでいる。

Botanical Safety Handbook: 無記載

評価: A

β -カルボリンアルカロイドを含有し、植物の部位不明であるが、劇薬相当の毒性データがある。

名称 シテイ

他名等 柿蒂

部位等 果実の宿存したがく(へタ)

備考

学名(科名) *Diospyros kaki* Thunberg (Ebenaceae) カキ科

其原植物和名等 カキ

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規

毒性データ (LD50 等) RTECS i.p. mouse 681mg/kg *Indian Journal of Experimental Biology*
28,619,1990

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

Stearic acid, palmitic acid, succinic acid, syringic acid, vanillic acid, gallic acid, kaempferol, quercetin, trifolin, hyperin, β -sitosterol, β -sitosteryl- β -D-glucoside, friedelin, oleanolic acid, ursolic acid, and 19 α -hydroxyursolic acid *Yakugaku Zasshi* (1977), 97(4), 452-5 ; flavonol glycosides *CPB* (1978), 26(6), 1936-41 (岐薬)

外国産の*D. tricolor*にはnaphthoquinoneの誘導体

主要な生理活性

頑固なシャックリにたいして有効。柿蒂湯(丁字8, 柿蒂8 生姜3、水100) シャックリ止め

重要文献

柿蒂そのものの成分研究は余り多くない。

その他注意すべき点

葉はすでに健康茶で売られている。また柿の葉に含まれる ケンフェロール-3-グルコサイド が、血圧降下成分と報告されている。

Botanical Safety Handbook: 無記載

評価: E

毒性データ、含有成分の両者から考えて安全性に問題はないと判断するが、積極的に食品として使用されているわけではない。

名称 シャクヤク

他名等 芍薬

部位等 根

備考

学名 (科名) *Paeonia lactiflora* Pallas (Paeoniaceae) ボタン科

其原植物和名等 シャクヤク

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

210処方中の配合処方：69

毒性データ (LD50 等) RTECS : i.p rat 700mg/kg, i.p. mouse 795mg/kg (root extract)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

paeoniflorin 安息香酸を結合する変型monoterpene (LD50 ; mouse i.p. 3530mg/kg, i.v. 9530 mg/kg, *Yakugaku Zasshi* 89, 899, (1969); albiflorin, oxypaeoniflorin, paeoniflorigenone, paeonilactone他

タンニン: tetragalloylglucose, pentagalloylglucose, heptagalloylglucose

主要な生理活性

Paeoniflorin: 鎮痛、鎮静、鎮痙、抗炎症、血圧下降、血管拡張、平滑筋弛緩

Paeoniflorigenone: 筋弛緩

収斂、鎮痙、鎮痛

重要文献

その他注意すべき点

Com E: *P. officinalis* の根を鎮痙、関節炎 (抗炎症)、循環器系、神経衰弱、鎮痛

Botanical Safety Handbook: *P. lactiflora*, class 1, *P. officinalis*, class 1, *P. suffruticosa* (ボタン) , class 2b

評価：B

局方に収載され、また多岐の処方で使用される重要な医薬品である。

名称 ジャシヨウ

他名等 オカゼリ

部位等 果実（蛇床子<ジャシヨウシ>）、茎、葉

備考

学名（科名） *Cnidium monnieri* (L.) Cusson (Umbelliferae) セリ科

其原植物和名等 オカゼリ

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規、第14改正日本薬局方第二追補収載予定
2~8gを煎じて服用する。外用には煎液の湯気をあてるか、坐薬とする。また粉末として患部に散布する。

配合処方：蛇床子湯（1処方）

毒性データ（LD50等） osthol: LD50 2905 mg/kg (rat oral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

osthol, osthol hydrate, cnidimarin, cnidimol B-F, cnidimonal, cnidioside A-C, karenin

主要な生理活性

エキスには抗トリコモナス作用、性ホルモン様作用などが報告されている。収れん性消炎薬として婦人の陰腫および粘液分泌物をとるのに外用する。

重要文献

C-M. Li, *et al.* : *Yunnan Zhiwu Yanjiu*, **17**, 459-462 (1995)

M. Leboeuf, *et al.* : *Planta Med.* **42**, 37 (1981)

P. Padma, N. P. Pramod, D. P. Thyagarajan, R. L. Khosa : *Journal of Ethnopharmacology*, **61**, 81-84 (1998)

新訂牧野和漢薬草大図鑑：358

その他注意すべき点

日本では中国産の蛇床子の代用品として、和蛇床子と称してヤブジラミ *Torilis japonica* A. P. DC.を用いている。ヤブジラミは日本の各地に生えているが、主な産地は四国、長野県で、朝鮮半島にも産する。またヤブジラミの代用品としてオヤブジラミ *T. scabra* DC.が混入する場合がある。ヤブジラミとよく似て、日本の各地にヤブジラミと混生している。果実は長楕円形で、刺針は長く開き、先端がわずかに曲がる。蛇床子は古来婦人病の要約とされてきたが、男子にも内服薬として用いられ、睾丸を強くする効果があり、インポテンツを治すという。

Botanical Safety Handbook: class 1

The Complete German Commission E Monographs: 無記載

評価：B

アルカロイド等は含有していないが、局外規収載生薬で漢方処方にも配合されているため専ら医薬品としておくことが望ましい。

名称 シュクシャ

他名等 シャジン、シュクシャミツ

部位等 種子の塊、成熟果実（縮砂<シュクシャ>、砂仁<シャジン>）

備考 シャジンの根は「非医」

学名（科名） *Amomum xanthioides* Wall. (Zingiberaceae) ショウガ科

其原植物和名等 アモムム・キサソティオイデス

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

健胃、整腸に縮砂 1 日量 1.5~6g を煎じて服用する。

210 処方中の配合処方：（12 処方）安中散、胃苓湯、化食養脾湯、響声破笛丸、香砂平胃散、香砂養胃湯、香砂六君子湯、実脾飲、椒梅湯、参苓白朮散、丁香柿蒂湯、分消湯

毒性データ（LD50 等） なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

borneol, bornyl acetate, linalool, *d*-camphor, nerolidol, camphene, α -pinene, β -pinene, cineole, nerolidol

主要な生理活性

水製またはメタノールエキスはウサギ胃内投与で胃液分泌を減少させ、エタノールエキスはラット十二指腸内投与で胆汁分泌を促進し、水製またはエタノールエキスは経口投与で同種の受身皮膚アナフィラキシーを抑制する。水製またはエタノールエキスはモルモット摘出回腸で弛緩、抗ヒスタミン、抗バリウム作用を示す。

重要文献

Sakai, K. *et al.* : *Chem. Pharm. Bull.*, **37**, 215 (1989)

山原篠二ら：生薬 **40**, 123 (1986)

江田昭英ら：日薬理誌 **69**, 88 (1973)

糸川秀治ら：生薬 **37**, 223 (1983)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook: class 1 (*Amomum melegueta* Roscoe, A. tsao-ko Crev. et. Lem.)

The Complete German Commission E Monographs: 無記載

評価：B

アルカロイド等は含有していないが、局方収載生薬で多岐の漢方処方にも使用されている重要生薬である。

名称 ショウブコン

他名等 カラムスコン、ノキアヤメ、ショウブ

部位等 根茎（菖蒲根<ショウブコン>または水菖蒲<スイショウブ>）

備考 浴用剤製造原料

学名（科名） *Acorus calmus* L. var. *asiaticus* Pers. (Araceae) サトイモ科

其原植物和名等 ショウブ

医薬品として使用実態があるか Yes 中国薬典収載

アユルヴェーダでは咳、片頭痛、精神障害、鼻カタル、痔疾、消化不良、便秘、小児の下痢等に汎用している。またヨーロッパではsweet flagの名称で胃腸薬とされ、胸焼け、消化不良、粘膜カタル等の治療に利用されている。生薬3~6gを水500~600mlで煎じ、煎液を分けて服用する。民間では、根茎や葉を刻み布袋に入れ、煮出し汁を熱いうちに浴湯料として使用し、神経痛、リウマチに効果があるといわれる。

配合処方：独活湯（1処方）

毒性データ（LD50等） エキス LD50 777mg/kg (rat, oral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

β -asarone, elemicine, methylisoeugenol, methyleugenol, preisocalamendiol, shyobunone, episyobunone, acoronene, epiacoronene, acorenone, acoric acid, acorone, epiacoronene

主要な生理活性

菖蒲の水浸剤は種々の皮膚真菌に対して抑菌作用がある。芳香性健胃薬、去痰、止瀉薬とし、腹痛、下痢、てんかんなどにも用いる。煎剤は吐気を催すことがある。なお菖蒲根には発癌作用があるとの報告がある。

β -Asarone: Spasmolytic activity. Also it shows anti-algal activity, is an insect chemosterilant and a strong insect attractant. β -Asarone is carcinogenic in animals and calamus oil has been banned in the USA. Therefore drugs containing only α -asarone are preferably used in pharmacy.

Methylisoeugenol: Expectorant, spasmolytic, antihistaminic and antibacterial activities. It is used as a local anaesthetic. It is moderately zoo- and phytotoxic.

重要文献

Dastur J. F. 著、伊藤和洋訳：「インドの自然療法」、本郷企画、東京、1982

Maybey R., "The Complete New Herbalm" Elm Tree Books, London, 1988, p. 28

その他注意すべき点

和名は同属であるセキショウ *A. gramineus* Soland.の漢名（菖蒲）の音読みである。古く誤ってこれにあてられたものが現在に及んでいるケースである。古名はアヤメ（文理または文目）、アヤメグサで、端午の節句に軒に並べることからノキアヤメの名もある。

Botanical Safety Handbook: class 1 (Herbs that can be safely consumed when used appropriately)

Com E 無記載

評価：A

医薬品としての使用実績が乏しいが、動物実験において発がん性が報告されている β -asaroneを含む。

名称 ショウボクヒ

他名等 ボクソク、ドコッピ、レキジュヒ

部位等 根皮または樹皮 (ボクソク)

備考

学名 (科名) *Quercus acutissima* Crruthers (Fagaceae) ブナ科

其原植物和名等 クヌギ

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規 Com E

内服としては、煎じるか散剤として服用する。外用としては、臼でひいて酢を加えて塗布する。また薬性を残す程度に焼き、すって調べて塗布する。

配合処方：治打撲一方、十味敗毒湯 (2 処方)

毒性データ (LD50 等) なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

acutissimin A-C, 6-*O*-galoylkoaburaside, quercitrin

主要な生理活性

腸を渋らせ、止瀉、収れんする。痔の出血を治す。

以下は *Quercus* spp. の含有物として記載されている。

Casuarictin: *In vitro* antihepatotoxic activity, due to enzyme inhibitory action on glutamine-pyruvic transaminase.

Coniferyl aldehyde: Inhibits prostaglandin synthetase and rat ear oedema. Also, it shows antifungal activity.

Eugenin: Antiviral activity against herpes simplex, and inhibitory action on adrenaline-induced lipolysis of fat cells of rats.

Pedunculagin: *In vitro* antihepatotoxic activity due to enzyme inhibitory action on glutamine-pyruvic transaminase.

It inhibits induced lipid peroxidation in rat liver mitochondria and adrenaline-induced lipolysis in fat cells of rats.

Sinapaldehyde: Inhibits prostaglandin synthetase and rat ear oedema.

Tellimagrandin I: *In vitro* antihepatotoxic activity due to enzyme inhibitory action on glutamine-pyruvic transaminase. It inhibits adrenaline-induced lipolysis in fat cells of rats.

重要文献

新訂牧野和漢薬草大図鑑：14

その他注意すべき点

収れん薬としてだけでなく、媒染剤、なめし皮剤としても利用される。また材は良質の木炭をつくり、池田炭またはサクラ炭という。和名は国木の意味であるといわれる。古名はツルバミ。

Botanical Safety Handbook: class 2d (*Quercus alba* L., *Q. robur* L., *Q. petraea* (Mattuschka) Liebl., Contraindicated for external use with extensive skin surface damage; full baths with a significant amount of the tea are contraindicated in following conditions: weeping eczema and skin damage over a large area; febrile and infectious disorders; cardiac insufficiency stages III and IV; hypertonia stage IV)

The Complete German Commission E Monographs: P. 175 (*Quercus robur*, *Q. petraea*)

評価：B

アルカロイド等は含有していないが、局外生規収載生薬で漢方処方にも配合されており、Botanical Safety Handbook においても様々な禁忌が報告されているため専ら医薬品とすることが望ましい。

名称 ショウマ（1）

他名等 サラシナショウマ、ヤサイショウマ

部位等 根茎（升麻<ショウマ>）

備考 アカショウマの根は「非医」

学名（科名） *Cimicifuga simplex* Wormskjold (Ranunculaceae) キンボウゲ科

其原植物和名等 サラシナショウマ（ヤサイショウマ）

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

熱性頭痛、咽喉腫瘍に、升麻 1 日量 3~5g に 400~500ml の水で煎じ、3 回に分服する。

210 処方中の配合処方：（8 処方）乙字湯、加味解毒湯、升麻葛根湯、辛夷清肺湯、秦九姜活湯、秦九防風湯、補中益氣湯、立効散

毒性データ（LD50 等） なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は 2-hydroxy-7-methyl-9H-carbazole

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

cimifugin, cimicifugoside, 2-hydroxy-7-methyl-9H-carbazole, isodahurinol, cimicifugic acid

主要な生理活性

cimifuginには中枢抑制作用、cimicifugosideにはヒトリンパ球またはマウスリンパ腫L-5178細胞等へのチミジン等ヌクレオシド取り込み阻害作用、免疫抑制作用が報告されている。

重要文献

G. Kusano *et al.* : *Heterocycles*, **36**, 2367 (1993)

M. Ito, Y. Kondo, T. Takemoto : *Chem. Pharm. Bull.*, **24**, 580 (1976)

Kondo, T. Takemoto : *Chem. Pharm. Bull.*, **20**, 1940 (1972)

H. Hemmi, *et al.* : *J. Pharm. Dyn.* **2**, 339 (1979)

H. Hemmi, N. Ishida : *J. Pharm. Dyn.* **3**, 643 (1980)

新訂牧野和漢薬草大図鑑：89

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook: 無記載.

評価：A

アルカロイド成分並びに中枢抑制作用を示す成分を含有するため、安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 ショウマ（2）

他名等 緑升麻、川升麻、西升麻

部位等 根茎（升麻<ショウマ>）

備考 アカショウマの根は「非医」

学名（科名） *Cimicifuga foetida* L. (Ranunculaceae) キンボウゲ科

其原植物和名等 コウライショウマ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

解熱、解毒、抗炎症に、升麻 1 日量 1.5~4.5g を煎じて服用するが、単味で用いられる事は少なく、主に各種の処方に配剤されて用いられる。

210 処方中の配合処方：（8 処方）乙字湯、加味解毒湯、升麻葛根湯、辛夷清肺湯、秦九姜活湯、秦九防風湯、補中益氣湯、立効散

毒性データ（LD50 等） エキス：LD50 1 g/kg (rat, ip)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

foetidinol, cimicinol, angelicain, cimicidanol

主要な生理活性

升麻の水浸剤は試験管内で結核桿菌、数種の皮膚真菌に対して抑制作用が認められ、水製エキスは動物実験によって血圧降下、心筋抑制などによる鎮静作用を示す。升麻は解熱、解毒、抗炎症薬として頭痛、寒熱、咽喉痛、口瘡、感冒、麻疹、脱肛、瘡腫などに用いられる。

重要文献

J. X. Li *et al.*: *Tetrahedron Lett.*, **34**, 4575 (1994)

S. Kadota *et al.*: *Tetrahedron*, **51**, 1143 (1995)

新訂牧野和漢薬草大図鑑：88

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook: class 2d (Contraindicated in measles and in persons with breathing difficulties; do not exceed recommended dose) (P.29)

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか 含まない

評価：A

アルカロイド成分並びに中枢抑制作用を示す成分を含有するため、安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 ショウマ (3)

他名等 関升麻

部位等 根茎 (升麻<ショウマ>)

備考 アカショウマの根は「非医」

学名 (科名) *Cimicifuga heracleifolia* Komar. (Ranunculaceae) キンポウゲ科

其原植物和名等 オオミツバショウマ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

内服として 1.5g~10g を煎じて服用する。また丸剤、散剤としても用いる。外用として升麻を粉末にし、調製して塗布する。または煎液で口をすすぐか患部を洗う。

210 処方中の配合処方：(8 処方) 乙字湯、加味解毒湯、升麻葛根湯、辛夷清肺湯、秦九姜活湯、秦九防風湯、補中益氣湯、立効散

毒性データ (LD50 等) なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

heracleifolinol

主要な生理活性

解熱、鎮痛、抗炎症作用がある。ヒトに大量に与薬すると、頭痛、震え、手足の強直性収縮を起こす。

重要文献

J. X. Li *et al.* : *Chem. Pharm. Bull.*, **41**, 832 (1993)

新訂牧野和漢薬草大図鑑 : 88

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook: 無記載.

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか 含まない

評価 : A

アルカロイド成分並びに中枢抑制作用を示す成分を含有するため、安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 ショウマ (4)

他名等 北升麻、興安升麻

部位等 根茎 (升麻<ショウマ>)

備考 アカショウマの根は「非医」

学名 (科名) *Cimicifuga dahurica* (Turcz.) Maximowicz (Ranunculaceae) キンボウゲ科

其原植物和名等 フブキショウマ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

解熱、解毒、抗炎症に、北升麻 1 日量 1.5~4.5 g を煎じて服用するが、単味で用いられることは少なく、各種の処方に配剤される。

210 処方中の配合処方：(8 処方) 乙字湯、加味解毒湯、升麻葛根湯、辛夷清肺湯、秦九姜活湯、秦九防風湯、補中益気湯、立効散

毒性データ (LD50 等) エキス LD50 >2500 mg/kg (mouse, oral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分を含むか Yes

含む場合その化合物は 3-(3-methyl-2-butenylidene)-2-indolinone, cimicifugamide (phenethylamine)

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No
主要な二次代謝産物等

3-(3-methyl-2-butenylidene)-2-indolinone, cimicifugamide, visnamminol, visnagin, dahurinol, cimicide

主要な生理活性

北升麻のエキスおよびイソフェルラ酸はハツカネズミに対し、正常体温を降下させ、解熱作用を示し、鎮痛作用も見られる。またビスナギン、ノルビスナギンはモルモットの摘出腸管に対し、顕著な解痙作用がみられるほか、水製エキスには抗炎症作用が認められる。北升麻は解熱、解毒、抗炎症薬として寒熱、頭痛、咽喉痛、脱肛、胃下垂、子宮脱垂などに用いられる。

以下は *Cimicifuga* spp. として記載

Cimicifugoside: Potent and selective inhibitor of nucleoside transport at the plasma membrane site of mammalian cells.

Cimifugin: Hypotensive activity in animals; it shows increasing coronary flow in isolated guinea-pig heart. The roots of *Lederbouriella* are used as a diaphoretic, an analgesic, and an antipyretic in Chinese medicine.

重要文献

1) K. Baba *et al.*: *Chem. Pharm. Bull.*, **29**, 2182 (1981)

2) C. J. Li *et al.*: *Chin. Chem. Lett.*, **4**, 891 (1993)

3) 新訂牧野和漢薬草大図鑑：88

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook: 無記載.

評価：A アルカロイド成分並びに中枢抑制作用を示す成分を含有するため、安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 ショウリク (1)

他名等 ヤマゴボウ

部位等 根 (商陸<ショウリク>)

備考 ヤマゴボウ (*Cirsium dipsacolepis*) の根は「非医」

学名 (科名) *Phytolacca esculenta* Van Houtte (Phytolaccaceae) ヤマゴボウ科

其原植物和名等 ヤマゴボウ (イヌゴボウ)

医薬品として使用実態があるか Yes 民間薬

利尿に1回3~6gを水300mlで1/3量に煎じて服用する。

毒性データ (LD50等) phytoraccoside B: 4.5 mg/kg (mouse, iv), phytoraccoside E: 486 mg/kg (mouse, ip)

同属植物 ヤマゴボウの近似種にヨウシュヤマゴボウ *P. Americana* L.と日本自生種のマルミノヤマゴボウ *P. japonica* Makino がある。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は lectin

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

phytoraccoside B, D, E, esculetic acid, esculentagenic acid, esculentoside B, I, M, N, Q, O, esculentagenin

主要な生理活性

硝酸カリウムに利尿作用があり、ヤマゴボウは昔から利尿薬として知られ、水腫に用いる。煎液を多量に服用すると長官の蠕動を亢進して下痢をおこし、腹痛を生じさず。Phytolaccatoxin は picrotoxin 様の作用を有するけいれん毒である。

重要文献

- 1) 新訂牧野和漢薬草大図鑑 : 59
- 2) 和漢薬百科図鑑 [I] : 141

その他注意すべき点

ヤマゴボウの近似種にヨウシュヤマゴボウ *P. Americana* L.と日本自生種のマルミノヤマゴボウ *P. japonica* Makino がある。両種とも根を商陸として用いる。

Botanical Safety Handbook: 無記載

The Complete German Commission E Monographs: 無記載

評価 : A

毒性の強い phytoraccoside B を含有するため専ら医薬品と考えられる。

名称 ショウリク (2) (ビショウリク)

他名等 ヨウシュヤマゴボウ

部位等 根 (美商陸<ビショウリク>)

備考

学名 (科名) *Phytolacca americana* L. (= *P. decandra* L.) (Phytolaccaceae) ヤマゴボウ科

基原植物和名等 ヨウシュヤマゴボウ

医薬品としての使用実態があるか Yes 中国薬典収載

毒性が強いので、民間での使用は避けたほうが良い。

毒性データ (LD50 等) エキス : LD50 65 mg/kg (rat, ip), phytoraccoside B: 4.5 mg/kg (mouse, iv), phytoraccoside E: 486 mg/kg (mouse, ip)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は betanidin derivatives

麻薬、向精神薬及び覚醒剤作用があるもの (類似化合物) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

americanin A, B, D, phytoraccoside A, B, D, E, F, I

主要な生理活性

フィトラッカトキシンは細胞毒の一種で、粘膜を刺激し、嘔吐を引き起こし、中枢神経を強く抑制する。根は利尿薬として水腫、脚気、リウマチ、腎臓炎などに用いられるが、毒性が強いので民間での使用は避けたほうが良い。

重要文献

- 1) 牧野和漢薬草大図鑑 : 59
- 2) Phytochemical dictionary 2nd Edition

その他注意すべき点

ヨウシュヤマゴボウの液果の果汁は紫ないし黒紫色で、一時的にインクとすることができ、そのためインクベリーという俗名があった。和名は外国産のヤマゴボウという意味であるが、地下部は食べられない。本種の繁殖力は旺盛で、現在は日本に以前からあるヤマゴボウ *P. esculenfa* Van Houtte をしのいで、ところどころの原野で野生状態になっている。

Botanical Safety Handbook: Class: 3 (P. 85)

The Complete German Commission E Monograph 無記載

評価 : A

エキスの LD50 値は劇薬相当であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 シンイ (1)

他名等 ヤマアララギ、コブシハジカミ、イモウエバナ

部位等 花蕾 (辛夷<シンイ>)

備考

学名 (科名) *Magnolia kobus* DC. (Magnoliaceae) モクレン科

其原植物和名等 コブシ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

配合処方: 葛根湯加川弓辛夷、辛夷清肺湯 (2 処方)

毒性データ (LD50 等) なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は salicifoline (phenylethylamine)

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

eudesmin, kobusimin A-B, salicifoline, spinescin

主要な生理活性

シンイの水浸エキスに骨格筋収縮作用があり、興奮発散、降圧、抗菌作用を持つ。鎮静、鎮痛剤として頭痛、歯痛、特に鼻炎、蓄膿症に有効とされている。

Estragole: Stimulates liver regeneration. It shows hypothermic and DNA binding activities. It is used in perfumes and as a flavour in foods and liqueurs.

重要文献

1) T. H. Yang *et al.*: *Yakugaku Zasshi*, **82**, 811 (1962)

2) 新訂牧野和漢薬草大図鑑: 67

その他注意すべき点

9~10月頃、袋果をつけるが、実をかむと辛味があるので、ヤマアララギ、コブシハジカミなどと呼ばれる。中国産の辛夷は、望春玉蘭 *M. biondii* Pamp.、武当木蘭 *M. sprengeri* Pamp.、ハクモクレン *M. denudata* Desr.、シモクレン *M. liliflora* Desr.、などの花蕾であるが、日本ではコブシで代用していた。近年はコブシより香気の強いタムシバ *M. salicifolia* (Sieb. Et Zucc) Maxim. を利用することが多い。なお韓国産辛夷はハクモクレンの花蕾といわれている。

Botanical Safety Handbook: 無記載

The Complete German Commission E Monographs: 無記載

評価: B

毒性データは少ないが、アルカロイド成分を含有しており重要な医薬品であることから、専ら医薬品としておくことが望ましい。

名称 シンイ (2)

他名等 ハクモクレン、玉蘭

部位等 花蕾 (辛夷<シンイ>、玉蘭<ギョクラン>)

備考

学名 (科名) *Magnolia denudata* Desr. (Magnoliaceae) モクレン科

其原植物和名等 ハクモクレン

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

配合処方：葛根湯加川弓辛夷、辛夷清肺湯 (2 処方)

毒性データ (LD50 等) なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は salicifoline (phenylethylamine)

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

denudanolide A-D, denudantin A-B, salicifoline

主要な生理活性

玉蘭の水浸エキスには、アルカロイドによると考えられる骨格筋収縮作用がある。煎剤は試験管内で病原性皮膚真菌に対して抗菌作用を持つ。玉蘭は鎮静、鎮痛、消炎薬として鼻炎、蓄膿症、鼻づまり、頭痛、頭重感、目まいなどに用いられる。

Naphthalene: Major floral scent constituent, attracting beetle pollinators.

重要文献

- 1) T. H. Yang *et al.*: *Yakugaku Zasshi*, **82**, 811 (1962)
- 2) 新訂牧野和漢薬草大図鑑：66

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook: 無記載

The Complete German Commission E Monographs: 無記載

評価：B

毒性データは少ないが、アルカロイド成分を含有しており重要な医薬品であることから、専ら医薬品としておくことが望ましい。

名称 シンイ (3)

他名等 タムシバ、カムシバ、サトウシバ

部位等 花蕾

備考

学名 (科名) *Magnolia salicifolia* (Sieb. Et Zucc.) (Magnoliaceae) モクレン科

其原植物和名等 タムシバ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

配合処方：葛根湯加川弓辛夷、辛夷清肺湯（2処方）

毒性データ (LD50 等) なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は salicifoline (phenylethylamine)

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

salicifoline, magnosalin, magnosinin, methylisoeugenol

主要な生理活性

シンイの水浸エキスに骨格筋収縮作用が見られる。シンイは鎮静、鎮痛剤として頭痛、歯痛、特に鼻炎、蓄膿症に有効とされている。

重要文献

- 1) T. H. Yang *et al.*: *Yakugaku Zasshi*, **82**, 811 (1962)
- 2) 新訂牧野和漢薬草大図鑑：71

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook: 無記載

The Complete German Commission E Monographs: 無記載

評価：B

毒性データは少ないが、アルカロイド成分を含有しており重要な医薬品であることから、専ら医薬品としておくことが望ましい。

名称 シンイ (4)

他名等 湖北木蘭、武当木蘭

部位等 花蕾 (辛夷<シンイ>)

備考

学名 (科名) *Magnolia sprengeri* Pamp. (Magnoliaceae) モクレン科

其原植物和名等 マグノリア・スプレングリ

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

配合処方：葛根湯加川弓辛夷、辛夷清肺湯 (2 処方)

毒性データ (LD50 等) なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

含む場合その化合物は magnosprengerine (phenylethylamine)

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

magnosprengerine

主要な生理活性

シンイは鎮静、鎮痛薬として鼻炎、蓄膿症、頭痛などに応用される。

重要文献

1) Z. Cao *et al.*: *Zhongcaoyao*, **16**, 386 (1985)

2) 新訂牧野和漢薬草大図鑑 : 68

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook: 無記載

The Complete German Commission E Monographs: 無記載

評価 : B

毒性データは少ないが、アルカロイド成分を含有しており重要な医薬品であることから、専ら医薬品としておくことが望ましい。